



ANNUAL
REPORT **2011**

www.cfc.or.jp

一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

本部事務局：兵庫県西宮市甲風園1丁目3-12 カミヤビル3階

仙台事務局：宮城県仙台市青葉区本町1丁目13-32 オーロラビル1106

TEL : 022(265)3461 FAX : 022(265)3471 E-mail : info@cfc.or.jp

すべての子どもに機会を すべての子どもに夢を

すべての子どもに
平等な教育の機会が与えられ
それぞれが自分の夢に向かって
進んでいける社会を目指しています

子どもたちにとって塾・予備校・習い事などの学校外教育は、多様な人間関係を育み、選択肢の幅を広げ、将来の自立に寄与する、成長に不可欠な機会です。しかし現在の日本では、義務教育により公教育の機会が保障されている一方で、学校外教育の機会は家庭の経済状況に左右されます。つまり、日本には家庭の経済的な理由で学校外の教育を十分に受けることができない子どもたちがいるのです。自分の生まれた環境によって教育の機会が失われ、将来をあきらめなければならない……そのような状態はあってはなりません。私たち「チャンス・フォー・チルドレン(CFC)」は、子どもたちの学校外教育の機会を保障することで、すべての子どもたちが自分の夢や目標に向かって進むことができる社会を実現したいと考えています。



Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

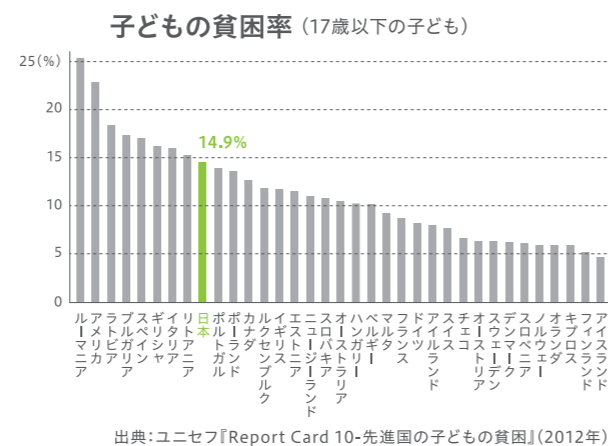
「子どもの貧困」は海外だけの問題ではありません

日本国内には、経済的な理由で学校外教育を十分に受けることができない子どもたちがいます。生まれた環境によって、子どもたちの将来が左右されることがあってはなりません。そのために私たちCFCは、経済的に苦しい状況にある子どもたちの学校外教育の機会を保障し、将来の自立を支えていきたいと考えています。

日本では、約7人に1人の子どもが貧困状態にあります

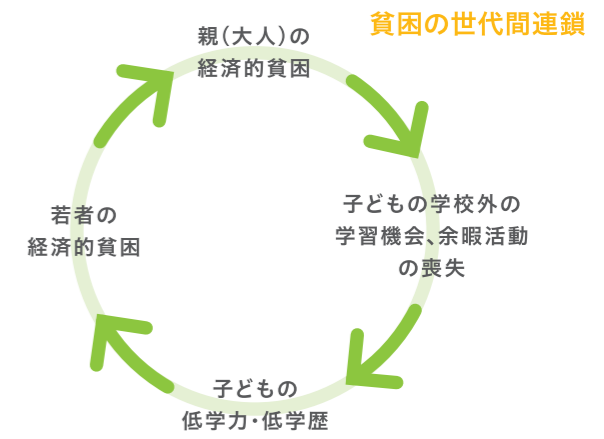
ユニセフ(国際連合児童基金)が2012年にまとめた報告書によると、日本の子ども(17歳以下)の相対的貧困率は14.9%でした。これは、先進国35ヶ国中9番目に高い数字であり、日本の子どもの約7人に1人が貧困状態にあることを示しています。

※子どもの貧困とは等価可処分所得(世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調節した所得)の中央値の半分に満たない17歳以下の子どものことをいう。



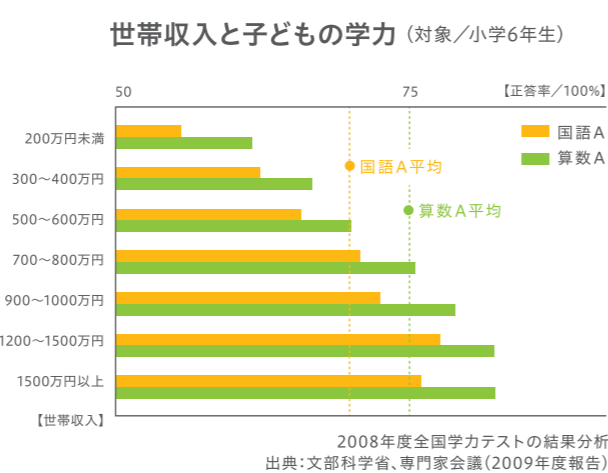
貧困の世代間連鎖が生まれています

親の経済的貧困は、子どもから学習の機会やさまざまな体験活動の機会を奪うことにつながります。教育機会に恵まれなかったことで低学力・低学歴になってしまった子どもは、大きくなったときに所得の低い職業につかざるを得なくなり、更には彼らの下の世代にも貧困が連鎖してしまうのです。



経済格差が子どもの学力格差を生みます

2008年度の全国学力テストの結果を分析すると、世帯収入の多寡で正答率に約20%の開きが生じていました。世帯収入の低い家庭・子どもにかけられる学校外教育費の少ない家庭ほど、子どもの正答率が低いことがわかります。家庭の経済格差が学力格差を生んでいるのです。



東日本大震災で、教育機会を奪われてしまった子どもたちがいます

2011年3月に発生した東日本大震災による経済的なダメージで、多くの子どもたちが被災前まで通っていた塾や習い事などを辞めざるを得ない状況に陥っています。CFCは2011年6月より仙台に事務所を構え、被災した子どもたちの支援活動を開始。被災という不可抗力の中でも子どもたちに学校外教育の機会を保障することこそが、長期的な被災地復興にもつながっていくと考えています。

塾・習い事などで利用できる 学校外教育バウチャーを 提供しています

CFCは、経済的な理由で学校外教育を受けることができない子どもたちに対して、学校外教育サービスに利用できるバウチャー（クーポン）を提供しています。子どもたちは、バウチャーを利用して、塾・習い事などに通います。現金給付ではなくバウチャーを提供することで、子どもたちに確実に教育機会を保障することができるのです。

Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

▶▶▶ Point 1

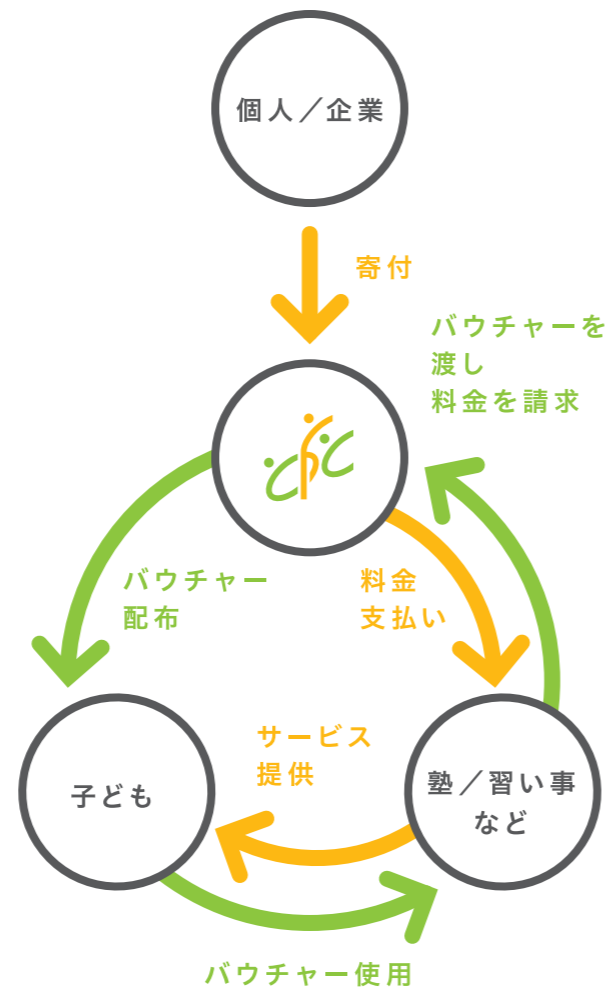
バウチャーの用途は 教育サービスに限定しています

経済的な理由で学校外教育を受けることができない子どもたちへ、学校外教育サービスに利用できるバウチャーを提供しています。現金給付ではなく、バウチャーを支給することで、教育以外の用途に使用されることがなく、確実に教育機会を提供することにつながります。また、バウチャーには有効期限を設けることができるため、貯蓄することができず、その大半が教育費用にまわされることになります。

バウチャーの利用先は 子どもたちが自由に「選択」できます

バウチャーが利用できるのは学習塾や予備校だけではありません。教科学習・スポーツ・文化活動・体験活動・習い事などの幅広いサービスに利用することができます。また、バウチャー利用先は子どもたちからのリクエストに応じて随時追加する仕組みのため、一人ひとりのニーズに合わせた支援を可能にします。

- ① 教科学習
- ② スポーツ
- ③ 文化活動
- ④ 体験活動
- ⑤ 習い事



▶▶▶ Point 2

バウチャーの仕組みは 被災地の教育事業者の自立を 支援し、雇用を促進します

塾や習い事教室などの教育事業者が子どもたちから受け取ったバウチャーは、CFCで換金できる仕組みになっています。つまり、被災地でバウチャーが使用された場合、被災地の教育事業者の収入源にもなるのです。バウチャーによる支援は、子どもに無償の教育支援をしながら、被災地の教育事業者の自立を支援し、雇用を促進できる有効な仕組みです。

▶▶▶ Point 3

大学生ボランティアが 子どもたちを継続的に サポートします

大学生ボランティアが月に一度、電話や面談を通して学習や進路の相談にのる「ブラザー・シスター制度」を導入しています。バウチャーの利用に関するアドバイスを行うことで、バウチャーの有効利用を促進します。また、子どもたちと年齢の近いお兄さん・お姉さんのような立場で子どもに寄り添いながら、その成長をサポートします。

一人当たり年間25万円のバウチャーを提供しています

学校外教育サービスの利用に限定したバウチャー（クーポン）です。CFCでは、市民・企業などの寄付金をもとに、子ども一人当たり年間25万円のバウチャーを提供しています。このバウチャー額は、文部科学省が調査した小学生～高校生の年間の学校外教育費の平均額をもとに算出したものです。

※西日本のプロジェクトでは、中学3年生・高校3年生に50万円分のバウチャーを提供します。



「もっとピアノが うまくなりたい」

兵庫県伊丹市／高校2年生女子

将来の夢を実現する為に、私はCFCバウチャーを使わせてもらっています。

私の将来の夢は、親がいない子どもや経済的な理由で生活状況が厳しい家庭の子ども、そして習い事をしたくてもできない子どもに、勉強やピアノや歌を教える先生になることです。そして、私自身がCFCバウチャーを使って学習塾に通い、ピアノの練習に取り組んでいるように、経済状況が苦しくても塾や習い事に行けるチャンスがあるんだということを、たくさんのお子たちに伝えたいと思っています。私は最近、英語を習い始めました。英語を勉強して留学をしたいという気持ちが湧いてきたからです。外国の子どもたちの中にも、私と同じ様に勉強する機会が欲しいと思っている子どもたちがたくさんいると思うので、日本の子どもだけではなく世界中の子どもたちにも夢と希望を与えることができればいいなと思っています。私はその夢を実現させるために、もっとも勉強とピアノを頑張っていきたいです。

Challenge of CFC-WEST-Japan

西日本での取り組み

貧困の世代間連鎖を 断ち切るために

CFC西日本では、生活保護受給世帯の子どもを対象にバウチャーを提供。学校外教育機会を保障することで親の収入格差から生まれる教育格差を是正するとともに、貧困の世代間連鎖を断ち切ることを目指しています。

阪神・淡路大震災の 被災児童支援を行ってきた NPO法人ブレンヒューマニティーの 活動がCFCの原点です

ブレンヒューマニティーは関西学院大学の学生4人により創立されました。1995年に発生した阪神・淡路大震災を契機に、被災した子どもたちの学習支援を行ったことが活動のはじまりです。以降18年間、兵庫県西宮市を拠点に阪神間の子どもの選択肢を広げるための活動を行ってきました。2000年には学生主体の団体として全国初となるNPO法人の認証を受けました。現在では年間800名程度の大学生ボランティアが主体となり、学習支援・キャンプ等の野外活動・海外でのワークキャンプ・不登校の子どもたちの支援等、幅広い領域で活動を展開しています。そして2009年、西日本の貧困世帯の子どもたちを対象とした学校外教育バウチャーの提供プロジェクトとして発足したのが、私たち「チャンス・フォー・チルドレン(CFC)」です。私たちは、活動の原点である西日本における貧困世帯の子どもたちの支援活動に、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。



「保育士になる、 という夢のために」

宮城県石巻市／中学2年生女子

私は3月11日の東日本大震災で自宅が津波に襲われ、たくさんのものを失いました。勉強する環境も失ってしまったために成績も下がり、将来への展望も描くことができなくなりました。

でも、今は違います。今の私には保育士になるという夢があるからです。この夢は、東日本大震災を経験し、避難所生活を送る中で見つけたものです。避難所では子どもたちの中で私が一番年上の存在だったので、小学生からまだ2歳や3歳といった小さな子どもたちの面倒を見ることになりました。そして気づいたら、子どもたちとふれ合うことが私自身の楽しみになっていました。このことがキッカケで、もっと勉強して保育士になるための資格を取ろうと決意しました。

そのために今の私がしなければならないことは、来年の受験で高校に進学することです。避難所生活では消灯時間も決まっていたため、思うように勉強ができず成績が下がってしまいましたが、今は仮設住宅で暮らしているので、CFCバウチャーを使って家庭教師の先生に苦手な教科を中心に勉強を見てもらいたいと思います。これからも将来の夢を叶えるために努力し続けていきたいです。

Challenge of CFC-EAST-Japan

東日本での取り組み

子どもたちの未来と 被災地復興のために

CFC東日本の活動は、東日本大震災で被災した子どもたちの支援を行うため、2011年6月にスタートしました。被災という不可抗力の中でも、子どもたちに確実に学校外教育の機会を保障すると共に、長期的な被災地の復興にもつなげたいと考えています。

CFC東日本の活動は ハタチ基金の支援事業の 一環として行われています

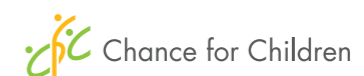
ハタチ基金では、東日本大震災発生時に0歳だった赤ちゃんが、無事に20歳(ハタチ)を迎えるその日まで継続的な支援を行います。この基金は公益財団法人日本財団が国内の教育関連NPO等と連携して立ち上げました。ハタチ基金が行う支援事業の基本スタンスは、被災地域に生きる方々自身が継続的に子どもたちを支え続けられるようサポートすること。そのために、各団体がそれぞれの特徴や強みを活かしながら、0歳児から20歳まで、現地ニーズや状況に合わせた支援活動を展開しています。CFCはハタチ基金の支援事業の一環として、20年間にわたり、被災地の子どもたちの支援活動を継続します。



基金設置団体



事業運営団体



「本当の妹のような存在です」

箱崎 渚 (はこざき なぎさ)

東北学院大学 教養学部3年生

私は小学生の頃、家庭教師の先生に教えてもらっていました。勉強だけでなく、学校の話や悩み事なども聞いてもらったりして、一人っ子だった自分にとっては本当のお姉さんのような存在でした。その憧れから、CFCのブラザー・シスターの活動に参加したいと思いました。

当初は、「私にできるのだろうか?」という不安もあったのですが、CFCでは専門家の先生による研修制度があるおかげで、しっかりと準備をして臨むことができます。特に研修でコミュニケーションについて学べたことは、子どもたちと接する上で大きく役立っています。

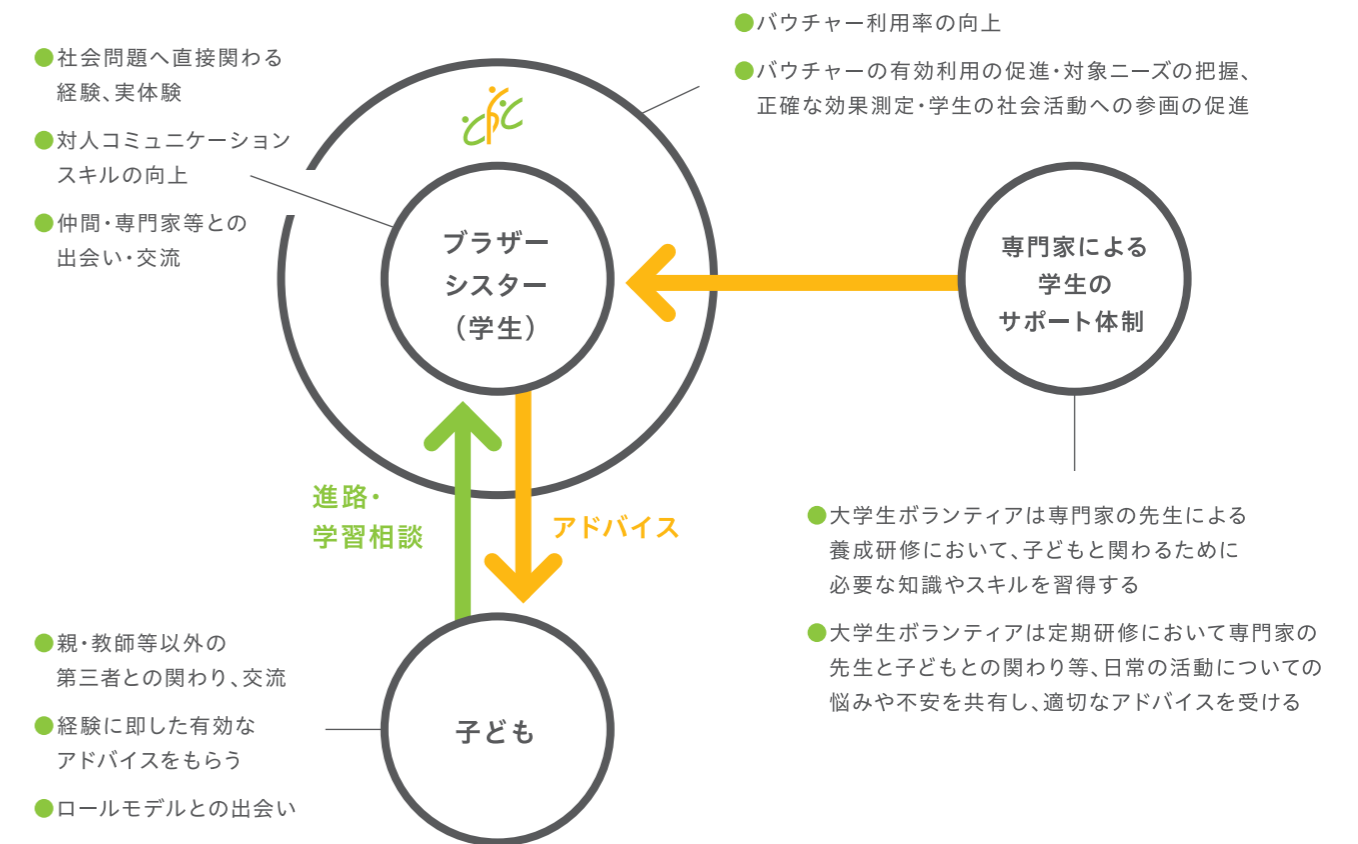
現在担当している女の子とは、2回の電話面談を通して「ディズニーが好き」という共通点を見つけていたので、3回目の面談で初めて会った時も、すんなり打ち解けることができました。電話面談の際に薦めたテキストが家にあったのは嬉しかったですね。今では本当の妹のような存在です。

彼女は今年、高校受験を控えているので、今後は進路の面でも何か力になりたいと思っています。「保育士になりたい」という夢を持っているので、どんな道があるのか色々調べているところです。これからも応援していきたいです。

ブラザー・シスター制度

大学生ボランティアが月に一度の電話や面談を通してバウチャー利用に関するアドバイスや進路・学習相談を行います

大学生ボランティア(ブラザー・シスター)は、専門家による対人援助、グリーフケア、進路・学習などに関する研修を受けています。また、2ヶ月に一度専門家からの助言等をもらう定期研修に参加し、子どもたちを支えるための知識やスキルを学んでいます。



ブラザー・シスターの声

私の担当するバウチャー利用者は受験を終えて高校に入学したばかり。でも、すでに将来を見据え、次の目標に向かって頑張っています。自分でもどんなサポートができるのかを考え、一緒に成長していきたいです。



桧垣 幸平 (ひがき こうへい)
関西学院大学 商学部1年生

私が担当しているバウチャー利用者はちょうど妹くらいの年齢。彼女たちの「お姉さん」として、進路に関してはもちろん、日常生活に関しても何でも相談してもらえる存在になればと思っています。



中澤 舞 (なかざわ まい)
東北大学 理学部2年生

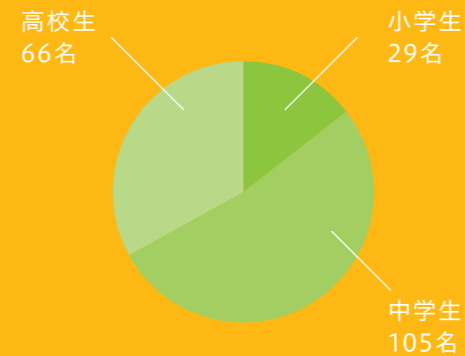
学校外教育バウチャーが 子どもたちの未来を 切り開きます

被災によって塾や習い事などをあきらめざるを得なかった子どもたち、家庭の経済的な理由によって十分な学校外教育を受けるチャンスがなかった子どもたちの未来を切り開くのが学校外教育バウチャーです。バウチャー利用者の多くが学ぶ機会を増やし、進学や就職のチャンスをつかんでいます。CFC東日本では応募者の73%、1012名が住家全壊、または原発災害によって避難している世帯の子どもです。それでもなお、1701名の応募者のうち、1500名以上の子どもたちには支援ができていない状況です。

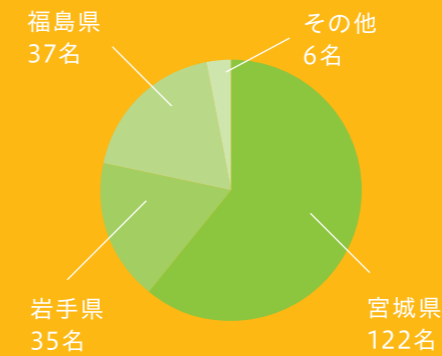
バウチャー利用者データ

(東日本 / 200名中)

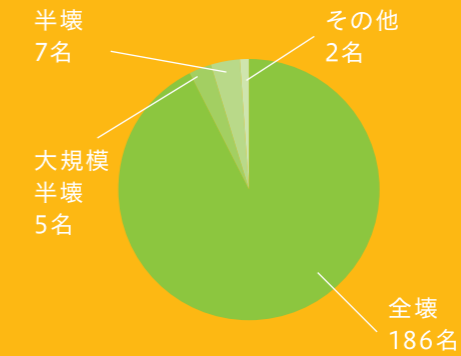
学年別



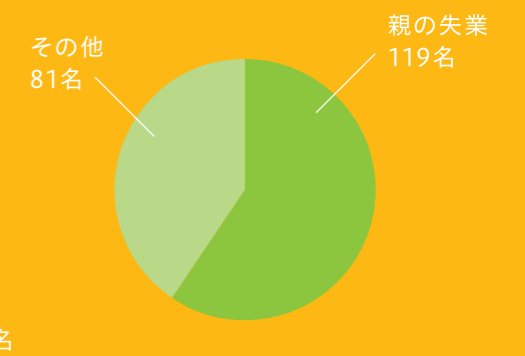
地域別



住家被害別



親失業の割合



バウチャー利用者進路実績

中学3年生(58名)

バウチャー利用者の100%が進学を果たしました。94.8%が希望する進学先に進むことができます。

卒業後の進路は?

内容	実数(名)	率
進学	58	100.0%
計	58	100.0%

進学先の学校は希望していたものでしたか?

内容	実数(名)	率
強く希望していた	38	65.5%
まあまあ希望していた	17	29.3%
あまり希望していなかった	0	0.0%
全く希望していなかった	3	5.2%
計	58	100.0%

高校3年生(21名)

バウチャー利用者の76.2%が進学を果たしました。66.7%が希望した進学先に進むことができます。

卒業後の進路は?

内容	実数(名)	率
進学	16	76.2%
就職	0	0.0%
浪人	2	9.5%
決まっていない	3	14.3%
計	21	100.0%

進学先の学校は希望していたものでしたか?

内容	実数(名)	率
強く希望していた	10	47.6%
まあまあ希望していた	4	19.1%
あまり希望していなかった	2	9.5%
全く希望していなかった	0	0.0%
浪人	2	9.5%
決まっていない	3	14.3%
計	21	100.0%

利用者・審査方法・応募者・対象者情報

CFC東日本

【バウチャー利用者情報】

バウチャー利用者 200名(応募者1701名)
バウチャー利用率 39.6%

※バウチャー利用率=既に利用されたバウチャー金額/バウチャー提供総額です。16ヶ月間の利用期間(2011年12月~2013年3月)のうち、4ヶ月(2012年3月末)時点で全体の39.6%のバウチャーが利用されました。

【審査方法】

●書類審査
(エントリーシート、罹災証明書、被災を証明する公的書類等を提出)

●審査基準
被災状況/学年/学校外教育サービスの利用状況

【対象者】

東日本大震災で被災した小学生~高校生
(住家被害、人的被害、親の失業、原発被害他)

CFC西日本

【バウチャー利用者情報】

[2011年3月提供]
バウチャー利用者2名(応募者2名)
バウチャー利用率99.0%

[2012年3月提供]
バウチャー新規利用者3名(応募者9名)
バウチャー継続利用者1名(前年度からバウチャーの利用を継続)
※バウチャーの有効期間は2012年4月1日~2013年3月31日

【第1次審査方法】

●書類審査
(エントリーシートを提出)
●審査基準
自己向上/学習意欲/進学・就職意欲(中高生のみ)

【第2次審査方法】

●面接審査
(CFC理事及びアドバイザーによる面接)
●審査基準
自己向上/学習意欲/日常生活/
進学・就職意欲(中高生のみ)

【対象者】

生活保護受給世帯の小学生~高校生
(兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県のみ)

子どもたちの夢は 私たちCFCの夢でもあります

子どもたち一人ひとりに、大切な夢があります。その夢を経済的な理由からあきらめることほど悲しいことはありません。一人でも多くの子どもに教育機会を提供し、ひとつでも多くの夢が実現することこそが、私たちCFCの夢であり、目標です。

私は小さい頃から医療系の仕事につきたいと思っていました。そして薬剤師という仕事を知り、とても興味を持ちました。また、東日本大震災の際には、避難所を訪問した赤十字の方々に大変お世話になりました。その経験から、私は人の命を救い、人の役に立つことのできる薬剤師になろうと心に決めました。一生懸命勉強して必ず夢をかなえたいと思います。

福島県 高校2年生女子

私の将来の夢は消防士です。昨年の東日本大震災、そして福島第一原発などの事故で多くの人が亡くなり、被災しました。そこで、私は人を救い、人を助ける仕事をしたいと思いました。しかし、夢を追っていても実現できなければ意味がありません。毎日欠かさず勉強して、1日1日、前を向いて夢をしっかりと実現して「消防士」になってたくさんの人を助けたいと思います。

宮城県 中学1年生男子

私の将来の夢は、とこやさんです。なぜ、私がとこやさんになりたいかという、おばあちゃんがとこやをやっていて、私もすぐやってみたいなと思ったからです。それに、もし今みたいに大変なことがあったときに、みんなのかみを切ってあげることができると思ったからです。だから、この夢に向かっていきたいと思います。そのために、いろいろ頑張っていきたいです。

岩手県 小学4年生女子

僕は、あまり自信はないけれど、町役場の公務員になりたいと思います。今の僕の学力ではまだ無理かもしれないけど、公務員になれるように勉強を頑張りたいです。もし僕が公務員になれたら、町の復興につながるような仕事をして、早く町に前のような明るさが戻るようにしたいです。そしてこの夢が現実になるように、町役場の公務員を目指して頑張りたいです。

岩手県 中学2年生男子

私のしょうらいの夢は、いちごやさんです。私の家族は8人います。おじいちゃんとおばあちゃんとお母さんとお父さんがいちごを作っています。いちごがりのお客さんに、「このいちご甘くておいしいですね」と言われます。私も大人になったら、お客さんのためにおいしいいちごを作って、いちごを食べた人に「おいしいですね」と言われたいです。

宮城県 小学2年生女子

僕の将来の夢は医師になることです。今回の震災によって地方は、深刻な医師不足があると実感しました。だから、僕は将来医師になり、少しでも地域医療の発展に尽力して、地域社会を支えていける存在になりたいです。また、自分自身、病弱なこともあり、小さいころから医師にあこがれていました。ずっと目標としてきた医師になって地域にも尽くしたいと思います。

宮城県 高校2年生男子

私は、しょうらい保育園の先生になりたいです。子どもが大好きで、自分にとっても合間合間と思ったからです。もう一つ、ピアノの先生にもなりたいです。それは、今教えてくれる先生がすごくきれいで、ピアノも両手で弾けているので、私も両手で弾けるようにして、先生みたいに美しくなりたいと思ったからです。これからいろいろけいけんして、がんばっていききたいです。

福島県 小学4年生女子

僕の将来の夢は高校の先生になることです。そして、野球が好きなので野球部の顧問になることも夢です。そのために、まずは毎日の勉強を積み重ねて、数学の先生になるための大学に現役合格を目指しています。大学でも野球に真剣に取り組み、選手として頑張ることも夢です。このような将来の夢に向けて毎日充実した生活を送ることを心がけています。

兵庫県 中学3年生男子

私の将来の夢は、作家になることです。小さい頃から、読む人に喜びや悲しみ、そして感動を与えられる本の力に魅力を感じていました。そして、自分も読んだ人に感動を与えられるような本を書きたいと思っていました。そしてそれは、震災を通じてより一層強くなりました。傷ついた人達の心に寄り添えるような、そんな本を提供できる作家になりたいと思っています。

千葉県 高校3年生女子

僕の将来の夢は、町や地域の人々が安全に安心して暮らせるような町づくりをする立派な警察官になることです。警察の方々には、3月11日以来お世話になっていて、地域の安全を守る姿を見てきています。僕もそんな風に地域の安全を守ることができるような警察官になりたいと思いました。そのためにバウチャーを使って頭を良くして立派な警察官になりたいと思います。

福島県 中学1年生男子

私の将来の夢は、看護師になることです。小学6年生で初めて入院をした時、看護師さんに優しくしてもらったことがきっかけです。私もそんな優しい看護師になれるように、1日に一回は人から「ありがとう」と言ってもらえるようなことをするという目標をたてています。昨日より今日、今日より明日、ありがとうの数が増えていくように頑張っていこうと思います。

兵庫県 中学3年生女子

各界の皆さまから応援と支援をいただいています

3.11東日本大震災。この震災は無情にも我が国の経験したことの無い規模の震災遺児、孤児たちを生み出しました。私も、子どもたちに[何か]をしなければならないという思いを抑えることができません。

CFCの皆様の活動を、同じ気持ちを持つものとして、心より応援しております。子どもたちの自らの蘇生のドラマに皆様の活動が大きな役割を担い、震災によって大きく傷ついた子どもたちの心が癒されることを願ってやみません。

3.11震災孤児遺児文化・スポーツ支援機構会長
作曲家

三枝 成彰 様



先日仙台のCFCを訪問した。決して立派とはいえないマンションの一室を事務所にして、ボランティアの青年たちが一生懸命活動している姿に感動した。何の見返りも求めず、本当に子どもたちのために、奔走している。若さの中を生きている彼らだからこそ、未来のために"今"がどれほど大切なものかを知っているに違いない。私たちもこのCFCのお力を借り、子どもたちの夢の実現のための団体を立ち上げた。今後は一緒にいるんなことができると確信しているのは、本当に誠実な青年たちをこの目で見ているからだ。

3.11震災孤児遺児文化・スポーツ支援機構会長代行
作家

林 真理子 様



寄付者の声

ポケモンは東日本大震災の直後より、子どもたちの支援活動「POKÉMON with YOU」を展開。その後、長期的な支援の基盤として「POKÉMON with YOU募金」を設立しました。全国のポケモンファンの皆様から集められた募金を、CFCの「学校外教育バウチャー」に充てようと考えたのは、「就学機会を必要とする子どもたちに地域格差なく行われる支援である」というご趣旨に賛同したからです。子どもたちの夢の実現を、今後も応援したいと思います。

POKÉMON with YOU 様



今回、当所の東日本大震災教育支援基金「りりん基金」より寄付させていただきました。小学生から高校生を対象に、学校外教育サービスを各自のニーズに応じて利用できるバウチャー。多くの被災した子どもたちが教育の機会を得て、震災を乗り越えて将来を逞しく歩んでいけるよう、その一助となることを強く願い、支援させていただきました。この活動がいつそう拡がりを見せ、子どもたちの笑顔が溢れるよう応援しております。

社団法人倫理研究所 様



未来を担う子どもたちの様々な夢を支援するこの活動に参加でき嬉しく思います。震災から1年が経過した現在でさえ、被災地の復興は始まったばかり。困難が多々待ち受ける中、一番励まされるのは子どもたちの笑顔です。彼らが、自身の手で素敵な人生、そして東北をはじめ日本の明るい未来を切り開いてくれることを信じ、少しでもそのお役に立てればと願っています。

カルチャー・コンビニエンス・クラブ
株式会社 TSUTAYA 事業本部
TSUTAYA CSR推進室 室長

平本 雅則 様



昨年は期間限定の活動でしたが1,056冊の古本を集めることができ、僅かですが寄付が叶いました。こんな小さな活動にも感謝状をいただきありがとうございます。CFCの活動には確かな軌跡があります。ストーリーのある活動には人の志があり本物の動きになるのだと思います。今後は、社員全員が通年で参加をしていきますので、ぜひ寄り添わせてください。

株式会社熊谷組 CSR推進室
CS推進グループ部長
(職員会本部長)

松田 和繁 様



「すべての子どもに夢を」というCFCのミッションやバウチャーを使った斬新なビジネスモデル、そして活動を通じてたくさん子どもたちが夢に近づいているという成果は、とても大きな素敵なことです。でも人が心を動かされるのは、その活動を推進している人の情熱や、夢を語る魅力的な横顔だったりするものです。CFCで出会った人はとても素敵な人でした。

コクヨ労働組合
グループ本社支部書記長

佐藤 一樹 様



CFCサポート会員(団体)・団体寄付 (2009年9月～2012年3月)

●特定非営利活動法人北播磨市民活動支援センター 様 ●神戸のじごくライオンズクラブ 様 ●TSUTAYA東日本大震災募金 様 ●BrainHumanity職員・ボランティア同 様 ●BrainHumanity同窓会 様 ●POKÉMON with YOU 様 ●ゆっくりやさしくパソコン教室 様 ●よこの会 様 ●公益財団法人神戸YMCA 様 ●社団法人倫理研究所 様

CFCサポート会員(個人)・個人寄付 (2009年9月～2012年3月)

●青木 正美 様 ●麻生 翼 様 ●アツギ タカシ 様 ●阿部 剛 様 ●阿部 正実 様 ●荒木 宏子 様 ●入井 孝子 様 ●池上 貴之 様 ●池淵 華子 様 ●石川 聡子 様 ●五十田 光宏 様 ●市位 辰三 様 ●今井 純子 様 ●今井 康雄 様 ●宇崎 美佐都 様 ●江口 聡 様 ●エビハラ ヒロキ 様 ●遠藤 真理子 様 ●大島 淡紅子 様 ●大藤 泰生 様 ●大本 晋也 様 ●大屋 ゆの 様 ●小笠原 洋一 様 ●岡部 陽平 様 ●沖田 亜美 様 ●奥野 正春 様 ●小尾 勝吉 様 ●兼子 佳恵 様 ●川上 泰弘 様 ●川田 敬俊 様 ●川中 大輔 様 ●菊池 寛史 様 ●北村 政記 様 ●源田 健介 様 ●小倉 政則 様 ●小嶋 恵明 様 ●小畑 茂美 様 ●今野 陽一 様 ●雑賀 キヨエ 様 ●雑賀 憲太 様 ●雑賀 幸代 様 ●雑賀 茂雄 様 ●雑賀 容子 様 ●桜井 政成 様 ●佐々木 耕志 様 ●貞本 幸男 様 ●佐藤 扶由夫 様 ●下村 尚司 様 ●首藤 広道 様 ●上月 正博 様 ●杉浦 昭代 様 ●鈴木 平 様 ●染川 国彦 様 ●高澤 邦彦 様 ●高橋 捷児 様 ●田中 優希 様 ●谷本 悦子 様 ●檀上 誠 様 ●塚本 沙弥香 様 ●津久井 進 様 ●東垣 芳昌 様 ●永井 洋子 様 ●長尾 文雄 様 ●長澤 悠太 様 ●中塚 久美子 様 ●中原 一雄 様 ●ナガヤ タカヒコ 様 ●並河 風美 様 ●西野 可奈 様 ●能島 裕介 様 ●NOBUCOMFAN オカモ 様 ●樋口 美沙子 様 ●平田 宗一郎 様 ●平畑 真智子 様 ●福島 愛 様 ●福島 昌子 様 ●藤田 明美 様 ●藤波 大吾 様 ●藤巻 光雄 様 ●堀籠 寛子 様 ●堀籠 祐一 様 ●本田 和広 様 ●前田 恵子 様 ●益田 貴広 様 ●樹谷 礼路 様 ●町 孝幸 様 ●松田 康之 様 ●松本 伊智朗 様 ●松本 学 様 ●三宅 由美 様 ●宮崎 亮太 様 ●宮沢 一朗 様 ●村井 琢哉 様 ●村田 いつ実 様 ●村田 智和 様 ●村田 早耶香 様 ●モリタ シゲオ 様 ●森山 隆一 様 ●森 亮 様 ●筋内 佑己 様 ●安武 翔 様 ●山田 泰久 様 ●山本 智也 様 ●山本 菜見子 様 ●吉田 美代子 様 ●脇阪 大輔 様

その他の寄付者 (2009年9月～2012年3月)

●ORIZURU(MOVIDA JAPAN株式会社様主催)を通してご寄付いただいた皆様 ●3.11 from KANSAIにて街頭募金にご協力いただいた皆様 ●Just Giving Japan(一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン様主催)を通してご協力いただいた皆様 ●チャリティ・プラットフォーム(特定非営利活動法人チャリティ・プラットフォーム様主催)を通してご寄付いただいた皆様 ●Chance for Children 募金活動にご協力いただいた皆様 ●Tポイント募金(カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社様主催)を通してご協力いただいた皆様 ●BOOKS FOR JAPAN・Book Raising(株式会社バリューブックス様主催)を通してご協力いただいた皆様

助成金・補助金 (2009年9月～2012年3月)

●公益財団法人日本財団 様 ●公益財団法人東日本大震災復興支援財団 様

CFCバウチャー取扱事業者紹介

16年間、地元宮城県に密着したマンツーマンの学習支援を展開してきました。震災が起きたのはちょうど年度末で、受験生には受験勉強の開始の遅れが深刻でした。進学に対しての強い希望があっても通塾できずにいる子どもたちにとって、このバウチャーはとてすばらしい制度でした。バウチャーを使い、通塾してくる子どもたちは、皆一生懸命勉強していました。志望校に合格した受験生たちの笑顔を見ることができたことが、弊社にとってははなよりの喜びでした。

開塾以来、地域に根差した運営を続けてきましたが、震災時に石巻市の教室が津波で流失。バウチャー利用者は、震災により自宅と両親が経営する会社が全壊し、受験生でありながら先行きに対する不安から自分一人で勉強するしかない状態でした。そんな中バウチャーを利用して私の塾に通うようになり、今までの遅れを取り戻すかのように学習に取り組んでいました。このバウチャー券によってこのような機会を与えられた子どもたちは本当に幸せだったと思います。

個別教室・家庭教師のアップル
株式会社セレクトィー 代表取締役

島山 明 様(宮城県)



伊東義塾 代表
伊東 孝浩 様(宮城県)



CFC東日本バウチャー取扱事業者 CFC東日本バウチャー取扱事業者の皆様はCFCサポート会員としても活動にご協力いただいています。

●特定非営利活動法人アスイク 様 ●株式会社イーオン・イースト・ジャパン 様 ●株式会社ECC ジュニア事業部 様 ●伊東義塾 様 ●岩崎FPCコンサルティング 様 ●株式会社栄光 様 ●英智学館大船渡校 様 ●英智学館気仙沼校 様 ●大沼学院 様 ●学習教室クラス 様 ●学習塾ベガサス互理教室 様 ●有限会社家庭教育情報センター 様 ●株式会社KATEKYOグループ 様 ●関塾岩沼駅前進学教室 様 ●株式会社公文教育研究会 様 ●くりこま高原自然学校 様 ●KSK松戸音楽教室 様 ●K学習塾 様 ●孔明塾 様 ●サカモト学習塾 様 ●佐藤英会話・五学塾 様 ●さとう学習会 様 ●有限会社ジー・エス・ケー 様 ●C²進学アカデミー 様 ●株式会社シェーンコーポレーション 様 ●株式会社滋慶 様 ●株式会社志文 東部自動車学校 様 ●株式会社進学会 様 ●有限会社新教育ゼミナール 様 ●株式会社スクールマインズ 様 ●株式会社ステップワールドLL原町教室 様 ●株式会社セレクトィー 様 ●東北ベストスタディ株式会社 様 ●中島工房ミュージック 様 ●日本習字旭館支部教室 様 ●ベスト学院株式会社 様 ●株式会社ベネッセコーポレーション 様 ●有限会社マスターマインズ 様 ●まなびの森 様 ●みなみ英語塾 様 ●むらかみミュージックスクール 様 ●株式会社明光ネットワークジャパン 様 ●ヤナセゼミ 様 ●株式会社ヨシヤ 松戸東自動車学校 様 ●株式会社ワオ・コーポレーション 様 ●和田ピアノ教室 様 (46事業者 1323教室 2012年3月31日時点)

CFC西日本バウチャー取扱事業者

●株式会社ECC 様 ●ECCジュニア 北野教室 様 ●きがみ進学教室 様 ●公益財団法人神戸YMCA 様 ●堂本ピアノ・エレクトーン音楽教室 様 ●株式会社日本公文教育研究会 様 ●株式会社ヒューマレッジ 様 (7事業者 2012年4月30日時点)



学校外教育バウチャーの普及が 子どもたちの笑顔につながると信じて

「すべての子どもに機会を。すべての子どもに夢を。」

私たちCFCはこのスローガンのもと、これからも
学校外教育バウチャーの仕組みを広げ、より多くの子どもたちが
夢や目標に向かって進んでいける環境づくりに取り組み続けます。

[現状の目標]

より多くの方にCFCの活動に参画していただき
一人でも多くの子どもにバウチャーを提供します

市民や企業の方々からいただいた寄付金を原資に、
CFCがバウチャーを提供します。

●CFC東日本は、東日本大震災発生から20年間にわたって、被災地の子どもたちの教育を支援し、復興に貢献していきます。

●CFC西日本は、生活保護世帯の子どもたちの支援を通じて、教育格差の是正に取り組みます。

[将来の展望]

学校外教育バウチャーの仕組みを日本中に広げます

学校外教育バウチャーの提供事業が全国の自治体の政策として導入されることを目指します。

●自治体への学校外教育バウチャー政策の提案や制度設計のサポートを行い、地域の教育格差是正に貢献します。

●2012年7月から大阪市において日本で初めて自治体による学校外教育バウチャー事業が開始されます。CFCは凸版印刷株式会社様と共同で当事業の委託を受け、事業運営を行います。

日本の未来を担う 子どもたちを 皆さまと「一緒に」 支えていきたい

CFC代表理事の3人は学生時代、CFCの設立母体であるNPO法人ブレンヒューマニティーで子どもたちの選択肢を広げるための様々な活動をしてきました。その中で3人が学んだことは、すべての子どもたちは大きな可能性を秘めているということ。子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出すために、これからも皆さまと「一緒に」支えていきたいと思ひます。



代表理事
今井 悠介
1986年生まれ
兵庫県出身

小学2年生の時に阪神・淡路大震災を経験。関西学院大学在学中、NPO法人ブレンヒューマニティーで不登校生徒支援に関わる。KUMONで教室コンサルタントとして勤務した後、'11年7月に退職し、当法人代表理事に就任。

家庭状況や突然の災害。困難な状況であっても子どもたちは前を見えています。子どもの「声」を聞くと、彼らは決して「可哀想な子ども」ではなく、これからの日本と一緒に支えていく大切な「仲間」だということに気がきます。「すべての子どもに機会を。すべての子どもに夢を。」このスローガンが達成されるその日まで、彼らの力を引き出すためのお手伝いをしていきたいと思ひます。



代表理事
奥野 慧
1985年生まれ
新潟県出身

19歳の時に新潟県中越地震を経験。関西学院大学在学中、NPO法人ブレンヒューマニティーで国際交流事業に関わる。'11年3月から東日本大震災緊急支援活動に参画。その後当法人設立・代表理事に就任。

2011年は西日本での支援に加え、東日本大震災被災地での事業の立ち上げ、法人設立等、私たちにとって大きな転機之年になりました。日本の教育構造では、世帯収入の多寡により学校外教育機会が左右されます。「被災や経済的困窮によって子どもの“チャンス”が制限されてしまう社会はおかしい」。そんな想いをもって僕たちは活動しています。これからも継続的なご支援をよろしくお願ひします。



代表理事
雑賀 雄太
1987年生まれ
香川県出身

関西学院大学在学中、NPO法人ブレンヒューマニティーで子どもの貧困プロジェクト代表を務める。大学卒業後、(財)大阪YMCAに入職。'11年3月、当法人の設立のため退職し、代表理事に就任。

子どもたちは様々な学びの機会を通じて、自分の目標や夢を見つけます。しかし、突然の災害や家庭の経済的な理由によって「学びたいのに学べない」子どもたちがたくさんいます。僕たちは、子ども一人ひとりの持つ目標や夢を大切に想いながら応援していきたいと思ひます。すべての子どもが自分の夢を追いかけられることのできる社会を実現したいと思ひます。

CFCの活動は、経験豊かな方々に 支えられています

「子どもの貧困」は、途上国だけの問題ではありません。すでに日本では、子どもたちの7人に1人が貧困であると言われていひます。それは私たちの足もとの問題であり、その問題から今、目を背ければ、新たな貧困を生み出すことになるのです。CFCの活動は、貧困の連鎖を断ち切り、その問題解決に向けた一歩になるでしょう。

多くの機会に恵まれぬ子どもたちに未来の夢を与えるきっかけを、ボランティア学生の協力で進めているこの活動に敬意を表します。学生さんも、ボランティア精神の真の意味を学び、この機会に別の世界を見るきっかけとなり、子どもたちと若者が共に次代を担い、すばらしい社会を創造できると期待し、この活動を心から応援します。

民間団体による支援活動の社会的価値が認知されるためには、寄付者や社会に対し、活動の状況だけでなく、その成果も説明していくことが必要です。この国際的には当然のことが、我が国では必ずしも浸透していません。CFCは社会に対して、真摯に説明責任を果たそうとしていひます。私はその姿勢を心から応援し、彼らの事業評価と改善のために支援したいと思ひます。

特定非営利活動法人
ビッグイシュー基金
理事長



佐野 章二 様

社会福祉法人
仙台いのちの電話
理事長



出村 和子 様

慶應義塾大学
経済学部教授



赤林 英夫 様

アドバイザー・スーパーバイザー：CFCの運営全般に関してアドバイス



明石 要一 様
千葉大学
教育学部教授



川北 秀人 様
IIHOE[人と組織と地球の
ための国際研究所]代表者



川島 恵美 様
関西学院大学
人間福祉学部准教授



高橋 聡美 様
仙台青葉学院短期大学
精神看護学講師



武井 敦史 様
静岡大学大学院准教授



田村 太郎 様
(一財)ダイバーシティ研究所
代表理事



津久井 進 様
弁護士法人芦屋西宮市民
法律事務所・代表社員



出村 和子 様
社会福祉法人
仙台いのちの電話 理事長



古野 一徳 様
日本学術振興会
特別研究員 (PD)



長尾 文雄 様
特定非営利活動法人ブレン
ヒューマニティー理事



能島 裕介 様
特定非営利活動法人ブレン
ヒューマニティー理事長



半羽 利美佳 様
武庫川女子大学文学部
心理・社会福祉学科准教授

トレーナー：大学生ボランティアの育成のサポート

佐藤 利憲 様

仙台青葉学院短期大学看護学科助教授

松浦 智博 様

株式会社デュナミス取締役キャリア教育コーディネーター

松本 幸子 様

宮城県中央児童相談所元職員・社会福祉士

評価分析チーム：外部評価者としてCFCの事業を評価・分析

赤林 英夫 様

慶應義塾大学経済学部教授

荒木 宏子 様

慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程

田中 隆一 様

政策研究大学院大学准教授

中室 牧子 様

東北大学大学院文学研究科助教授

パートナー

ブレンヒューマニティー



ブレンヒューマニティーは、チャンス・フォー・チルドレンの設立母体であり、日本で初めて学校外教育パウチャー事業を開始したNPO法人です。阪神・淡路大震災が活動の原点であり、現在は子どもたちの選択肢を広げるための幅広い事業を展開しています。

ハタチ基金



ハタチ基金は、東日本大震災で被災した子どもたちを20歳まで支え続けることを目的に国内の教育関連NPOなどが連携し、その運営を行っています。当法人もハタチ基金運営団体のひとつとして、被災した子どもたちに対して学校外教育パウチャー提供事業を行っています。

財務・会計

損益計算書の要旨

(2011年6月20日から2012年3月31日まで)

(円)

収益の部	1 寄付収入	22,905,512
	バウチャー指定寄付	22,297,512
	運営費指定寄付	608,000
	2 補助金等収入	59,198,963
	3 委託収入	1,684,419
4 雑収入	2,182	
収入の部合計		83,791,076
費用の部	1 事業費	57,473,938
	バウチャー発行高	50,000,000
	その他事業費	7,473,938
	2 管理費	19,229,191
	人件費	7,635,570
	その他経費(地代家賃・事務費等)	11,593,621
	支出の部合計	
当期正味財産増加額		7,087,947

貸借対照表の要旨

(2012年3月31日現在)

(円)

資産の部	1 流動資産	46,435,083
	現預金	43,170,409
	未収入金	3,264,674
	2 固定資産	1,794,613
資産の部合計		48,229,696
負債の部	1 流動負債	41,141,749
	バウチャー引当金	14,750,000
	未払金(提供バウチャー未使用分等)	25,206,400
	未払費用(未払人件費等)	1,030,111
	その他流動負債	155,238
負債の部合計		41,141,749
正味財産	7,087,947	
(うち当期正味財産増加額)		7,087,947

貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書)及び財産目録は、法令及び定款にしたがい、法人の財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。

監事

津久井 進



スーパーバイザー意見

2009年から始まったCFCの取り組みが、東日本大震災被災地においても大きな役割を果たすことになったことは高く評価されることである。とりわけ塾や習い事、文化活動、スポーツ活動などの学校外教育事業者も大きな被害を受けた被災地において、被災した子どもの学びを支えるだけでなく、こうした事業者の自立を支え、被災地に雇用を生み出すCFCの仕組みは新しい被災地支援のあり方として注目に値するものであると思われる。

一方、それらの支援に要する費用の多くはハタチ基金を通じた寄付に大きく依存しており、自立的で安定的な事業の展開の観点からはさらなる自己財源の確保が求められることである。また、貧困世帯の子どもたちや被災した子どもたちへの支援はこうした民間による寄付だけでなく、公的資金の導入も必要であると思われる。この点を踏まえ、今後は企業、団体、個人からの寄付の拡充を図りつつも、行政と連携したバウチャーの取り組みも視野に入れる必要があるだろう。

いずれにせよ、2011年度において、CFCはその事業規模においても、その重要性においても飛躍的な拡大が行われた訳であるから、それに堪えるような組織基盤の整備は最優先の課題であるといえるだろう。

特定非営利活動法人
プレーンヒューマニティー
理事長

能島 裕介



2011年度の活動

2011年6月20日 一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン設立

東日本

2011年	9月12日	バウチャー利用者応募開始
	10月31日	バウチャー利用者応募締切
	11月1日～11日	バウチャー応募者選考
	11月5・6日	ブラザー・シスター養成研修(以後、2回実施)
2012年	11月27日	第1次バウチャー提供/バウチャー贈呈式開催
	12月1日	バウチャー利用開始(有効期限:2013年3月31日)
	1月8日	バウチャー利用者/ブラザー・シスター初回面談(以後、毎月1回実施)
	2月18日	ブラザー・シスター定期研修
2012年	2月26日	学校外教育フォーラム開催
	5月5日	第2次バウチャー提供/バウチャー贈呈式開催

西日本

2011年	4月1日	バウチャー利用開始(有効期限:2012年3月31日) バウチャー利用者/ブラザー・シスター初回面談(以後、毎月1回実施)
	10月8日～12月28日	街頭募金活動実施
2012年	2月7日	バウチャー利用者応募開始
	3月7日	バウチャー利用者応募締切
	3月8日～14日	応募者第1次選考(書類審査)実施
	3月15日	応募者第1次選考通過者決定
	3月22日～25日	応募者最終選考(面接審査)実施
	3月30日	ブラザー・シスター養成研修実施
3月31日	バウチャー提供(2012年4月1日～利用開始)	

メディア

テレビ	2012年 2月29日	仙台放送「スーパーニュース」 学校外教育バウチャーによる被災地支援活動紹介
	2012年 2月7日	毎日放送「VOICE」 学校外教育バウチャー事業紹介
	2012年 2月3日	朝日放送「キャスト」キャスト教育委員会 学校外教育バウチャー事業紹介
ラジオ	2011年 12月11日	81.3FM J-WAVE「LOHAS SUNDAY」 代表理事奥野慧インタビュー
	2011年 9月30日	81.3FM J-WAVE「JK RADIO TOKYO UNITED」 “KONICA MINOLTA COME TOGETHER”代表理事今井悠介インタビュー
新聞	2012年 3月9日	日本経済新聞 CFC学校外教育バウチャー事業紹介記事
	2012年 2月27日	河北新報 学校外教育フォーラム紹介記事
	2012年 1月17日	産経新聞 代表理事今井悠介のインタビュー記事
	2012年 1月5日	神戸新聞 代表理事今井悠介のインタビュー記事
	2011年 12月2日	朝日新聞 学校外教育バウチャー事業紹介記事
	2011年 11月28日	朝日新聞 CFCバウチャー贈呈式紹介記事
	2011年 11月28日	読売新聞 CFCバウチャー贈呈式紹介記事
	2011年 11月28日	河北新報 CFCバウチャー贈呈式紹介記事
	2011年 11月28日	毎日新聞 CFCバウチャー贈呈式紹介、大学生ボランティアの紹介記事
	2011年 9月29日	朝日新聞 CFCバウチャー利用者募集記事
	2011年 9月21日	河北新報 CFCバウチャー利用者募集記事 他
雑誌	2012年 3月1日	ソトコト(2012年3月号) 学校外教育バウチャー事業紹介
	2012年 2月7日	経済界(2012年2月7日号) 学校外教育バウチャー事業紹介
	2011年 12月1日	ソトコト(2011年12月号) 学校外教育バウチャー事業紹介

今この瞬間も、1500名以上の子どもたちが、
私たちの支援を待っています。
皆さまのご支援をよろしくお願いします。



All Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

支援方法

CFCサポート会員への入会(継続的に応援する)

月500円からの寄付で日本の子どもたちを支えることができます。

【CFCサポート会員の種類】

CFC東日本サポート会員(個人・団体)

東日本大震災で被災した子どもたちの支援

CFC西日本サポート会員(個人・団体)

西日本の貧困層の子どもたちの支援

【入会方法】

1. 自動振替による決済

「入会申込書、預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」を送付させていただきます。資料をご請求ください。
E-mail: info@cfc.or.jp TEL: 022(265)3461

2. クレジットによる決済

専用ページからお手続きください。
<https://mp.canpan.info/cfc/>
※決済時には会員登録が必要となります

自由な金額を寄付

CFC東日本 銀行振込

金融機関：三井住友銀行 仙台支店
口座番号：普通 1756243
口座名義：一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

CFC東日本 郵便振替

口座番号：02280-1-110338
口座名義：チャンス・フォー・チルドレン東日本

CFC西日本 銀行振込

金融機関：三井住友銀行 西宮北口支店
口座番号：普通 4686606
口座名義：一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

CFC西日本 郵便振替

口座番号：02200-6-134098
口座名義：チャンス・フォー・チルドレン関西

その他の支援方法

古本寄贈による寄付



チャレンジによる寄付
Just Giving Japan

Tポイントを寄付
T-POINT

支援方法について詳しくはwebで www.cfc.or.jp/support

CFC 検索